



2012年12月10日(月) 開催

テーマ:「オバマ大統領のグローバル・チャレンジ」

報告者: 小堀 深三(研究顧問)

概要

1 2012年米国大統領選挙と中間選挙の総括

大統領再選が確実になった11月6日深夜に行ったオバマ大統領の勝利演説に次のような一節がある。

I believe we can keep the promise of our founders, the idea that if you're willing to work hard, it doesn't matter whether you're black or white or Hispanic or Asian or Native American or young or old or rich or poor, able, disabled, gay or straight, you can make it here in America if you're willing to try.

I believe we can seize this future together because we are not as divided as our politics suggests. We remain more than a collection of red states and blue states. We are and forever will be the United States of America.

保守とリベラルの二重性がはっきりしているアメリカ政治や、民族的・文化的・社会的な多様性の坩堝であるアメリカ社会のなかで、オバマの政治理念は「一つのアメリカ」の理想の実現。

(1) オバマの勝利の法則:「80:40 ルール」

今回のオバマの勝利は、白人票の40%およびマイノリティ(ヒスパニック、黒人、アジア系)票の80%獲得に成功したことによる。

今回の大統領選挙の出口調査によれば、マイノリティ投票が全一般投票数の28%、白人投票(Non-Hispanic Whites)が72%であった。その28%の80%(22.4)と72%の40%(28.8)をオバマ陣営が確保すれば、全投票数の51%強になる計算。オバマ選対委員長は早くからこの「80:40 ルール」に基づく選挙戦術を立てていた。

(2) 2012年と2008年の比較

① 一般得票数と両候補の得票比率

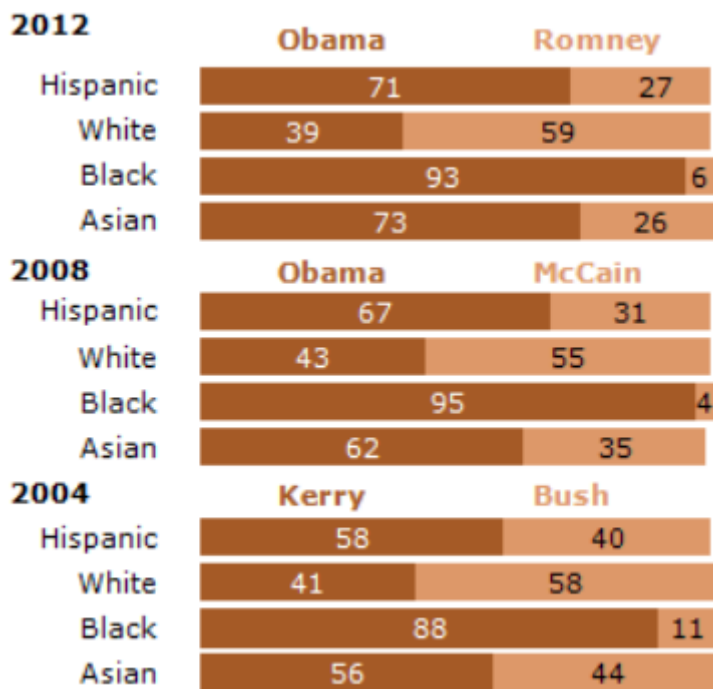
2012 results	VOTES	% WON	Results: 2008 2004	VOTES	% WON
Barack Obama <input checked="" type="checkbox"/>	62,611,250	50.6%	Barack Obama <input checked="" type="checkbox"/>	69,492,376	53.0%
Mitt Romney	59,134,475	47.8	John McCain	59,946,378	45.7
Others	1,968,682	1.6	Others	1,703,390	1.3

第一期の一般得票数比率を下回る比率で再選された大統領は、アンドリュー・ジャクソン大統領(第7代。1829~1833, 1833~1837)以来のこと。

② オバマの選挙代理人獲得数は、2012 年が 332 人(代理人総数の 62%)、2008 年は 365 人(同 68%)

③ オバマの支持基盤投票行動分析(2008 年及び 2004 年との対比)

一般投票ベース(投票率 %)



出所: The Pew Research Center: "Latino Voters in the 2012 Election", November 7, 2012

④ 有権者(18 歳以上)人口の推移、2012 年、2030 年 単位: 百万人

白人有権者増加数 900 万人、Hispanic 有権者増加数 1,600 万人(全有権者増加数 4,100 万人の 40%)

	2012	2030	Share of growth (%)
All	215	256	100
Hispanic	24	40	40
White	154	163	23
Black	27	35	21
Asian	9	16	15

出所: Pew Research: Hispanic Electorate is likely to double by 2030

(3) 中間選挙結果

- ① 上院は民主党過半数維持。但し「フィリバスター(議事妨害)」阻止に必要な 60 議席は未達
- ② 下院は共和党過半数維持。但し一般投票数では民主党が共和党を上回った。
- ③ ねじれ国会存続
妥協の原則を拒否し、無責任の厚かましさを横行は米国政治の極端な対立の反映
(Strobe Talbott, the Brookings Institution 所長)

2 オバマ大統領のグローバル チャレンジ(リストアップ)

(1) 第一期大統領時代にやり残した課題の実行(Strobe Talbott の提言)

- ① 地球温暖化
- ② 包括的核実験禁止条約(CTBT)の米上院批准取り付け。
(日本は 1997 年 7 月批准済み)
(オバマ大統領は 2009 年ノーベル平和賞受賞者)

(2) キッシンジャー博士の提言

“Iran must be President Obama’s immediate priority”(2012 年 11 月 17 日付 The Washington Post に掲載)。

(3) GLOBAL TEN—Carnegie 研究所の提言書(2012 年 11 月 20 日 140 頁)

- ① Challenges(5 つのテーマ)
 - ・「財政の崖」を越えて、社会健康保険制度と社会的不平等問題に挑戦
 - ・アフガニスタンにおける破滅的な失敗回避
 - ・イランの核脅威
 - ・中国との新しい大国関係の在り方
 - ・新しいアラブ世界の目覚め
- ② Opportunities(5 つのテーマ)
 - ・米国のシェール・ガス革命とエネルギー自立化
 - ・米・ロの新しい戦略関係の在り方—ミサイル防衛協力
 - ・米・インドの新友好関係
 - ・海外の民主化の積極的推進再活性化
 - ・米中安全保障の戦略的協力—中国の核兵器リスク減少措置

(4) Daniel Deudney of Johns Hopkins Univ. and G. John Ikenberry of Princeton Univ の

提言 (Council on Foreign Relations, November 2012)

Democratic Internationalism—An American Grand Strategy for a Post-exceptionalist Era

(5) Pivot to Asia 推進 (第 1 期からの継続)

- ① 再選後のオバラ大統領の最初の訪問国は、タイ、ミャンマー、カンボジア。東アジア・サミット出席。
- ② Pivot to Asia 政策とは何か
 - ・アジア地域同盟関係強化・深化
 - ・新興国(インド他)とのパートナーシップ確立
 - ・グローバル及び地域的制度面での関係強化 (G20, ASEAN の役割重視等)
 - ・中国との安定的で建設的な関係追求
 - ・TPP の推進 (Thomas P. Donilon 米国家安全保障会議担当大統領補佐官が 2012 年 11 月 15 日、CSIS で行った講演参照)

3 米国から見た TPP 相手国 (但し日本は加盟検討国)

数字は、二国間の貿易総額 (単位 10 億ドル 2011 年 例示: 日米貿易 1,950 億ドル)

TPP 参加国の対米貿易は、カナダ、メキシコ、日本以外は数百億ドル規模。



出所: Congressional Research Service: The Tpp Negotiations and Issues for Congress, September 5, 2012

4 結び

オバマ大統領の当面の最優先課題は、「財政の崖」問題処理。(2012年1月1日上下両院でミニ合意成立。ただし公的債務上限の再引き上げと歳出強制削減問題は先延ばし。これら積み残しの課題について、2月末には再び大統領と上下両院共和党議員との間で協議の山場を迎える)

アメリカは先進国中、財政健全化が最も遅れている国。(但し日本は例外)オバマ大統領がグローバル・チャレンジにリーダーシップを発揮する一つの前提条件として、自国内財政の構造改革は避けて通れない課題である。「財政の崖」の処置はその第一歩にすぎない。しかしながら、グローバルな課題の解決に米国のリーダーシップが不可欠であることに、これから少なくとも20年は変わらないであろう。

以上